

第二次柴山瀉流域生活排水対策推進計画 改定版の概要

1. 第二次柴山瀉流域生活排水対策推進計画の改定について

柴山瀉流域は、平成7年3月に石川県より生活排水対策重点地域の指定を受け、これまで本市では、平成28年9月に「第二次柴山瀉流域生活排水対策推進計画」（以下「第二次計画」という）を策定するなど、その水質浄化のための総合的かつ積極的な生活排水対策に取り組んできました。

しかし、柴山瀉の水質は環境基準値を上回ったまま推移しており、近年でも柴山瀉から悪臭がするとの声が聞かれる現状から、第二次計画を改定し、柴山瀉流域のさらなる水質改善を目指します。

2. 生活排水対策の基本理念

甦れ！ 柴山瀉（澄んだ水・豊かな自然・安らげる空間を求めて）

3. 生活排水対策の基本方針

計 画	基本方針	基本方針の内容
第二次計画	生活排水処理施設の整備	・公共下水道等の整備と加入促進 ・合併処理浄化槽の設置促進
	啓発活動の実践	・良好なコミュニケーションの形成 ・生活排水対策に関する正しい知識の流域住民への提供 ・水に親しむ機会の提供 ・これらの啓発内容の確実な実践
第二次計画改定後	柴山瀉の直接浄化	・底泥の浚渫による有機物や栄養塩の溶出量の削減 ・水質浄化の手法を研究
	自然負荷対策	・環境保全型農業の推進
	湖沼環境の整備	・柴山瀉周辺への親水空間を整備

4. 目標年度及び目標水質

【計画目標年度】 令和12年度

【目標水質】 湖沼A類型(COD=3.0mg/L以下)の達成

5. 生活排水対策の基本方針の内容

(1) 生活排水処理施設の整備 継続

・公共下水道等の整備と加入促進

施設整備を継続することに加えて下水道の加入促進などソフト面での生活排水対策に取り組む。

・合併処理浄化槽の設置促進

下水道等施設による集合処理が困難な地域では、合併処理浄化槽での整備を促進する。

(2) 啓発活動の実践 継続

・良好なコミュニケーションの形成

町内会等の自治会や、生活排水対策等の活動に取り組んでいる住民団体と協力して啓発活動を行う。

・生活排水対策に関する正しい知識の流域住民への提供

生活排水対策への関心、理解を深め、実行してもらうために、生活排水対策に関する正しい知識を提供する。

・水に親しむ機会の提供

市民団体等と連携した柴山瀉周辺の生物調査や施設見学等、水に触れあえる場を提供し、水環境に対する意識を高める。

・これらの啓発内容の確実な実践

(3) 柴山瀉の直接浄化 新規

・底泥の浚渫による有機物や栄養塩の溶出量の削減

柴山瀉の管理者である石川県に対して浚渫の再開などの直接浄化策を要望していく。

・水質浄化の手法を研究

水質浄化や悪臭の対策について、新しい直接浄化の手法などを調査研究し、石川県と情報を共有していく。

(4) 自然負荷対策 新規

・環境保全型農業の推進

化学肥料の低減をさらに推進する取組となる環境保全型農業を推進していく。

(5) 湖沼環境の整備 新規

・柴山瀉周辺への親水空間を整備

これまでの親水空間の整備に加え、市民や観光客に対してさらなる親水空間を提供し、よりいっそう親水性を高めていく。

柴山瀉の水質に係る参考資料（第二次計画改定版から抜粋）

水質の動向

(1) COD(化学的酸素要求量)

柴山瀉のCOD75%値※1を図1に示す。

平成6年度前後にピークを示しているが、その後は、減少に転じて直近20年ではおおむねね6mg/L~8mg/Lで推移している。

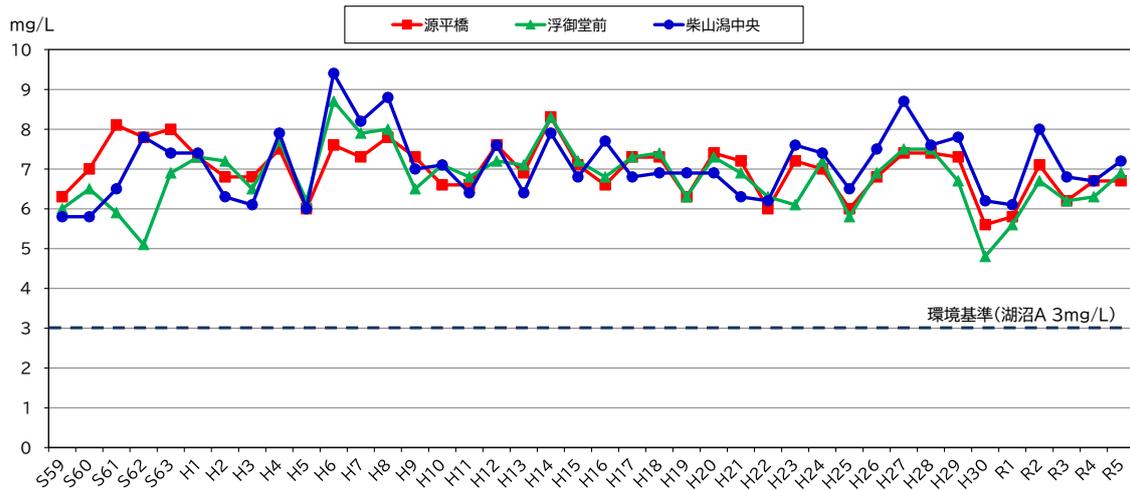
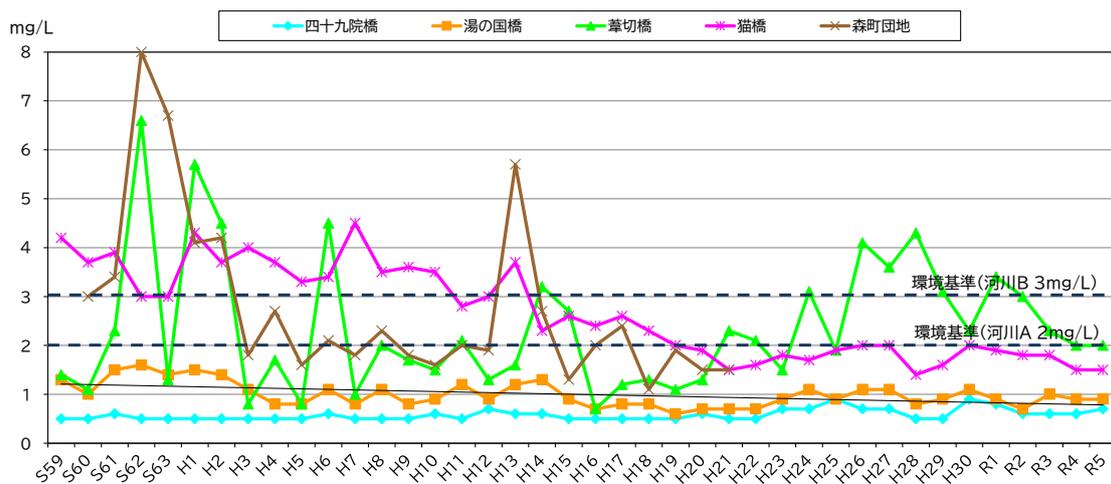


図1 柴山瀉のCOD75%値の動向

(2) BOD(生物化学的酸素要求量)

柴山瀉へ流入する河川のBOD75%値※2を図2に示す。

流入河川の水質はおおむね改善傾向にあり、直近10年間では葦切橋は環境基準の超過が見られるが、他の地点はほぼ環境基準を達成している。



※四十九院橋、湯の国橋は「河川A」、葦切橋、猫橋は「河川B」に該当する。

図2 柴山瀉流入河川のBOD75%値の動向

(3) 全窒素

柴山瀉の全窒素平均値を図3に示す。柴山瀉の環境基準点での値は、近年は下降傾向にあるが、依然として基準を満たしていないことが分かる。

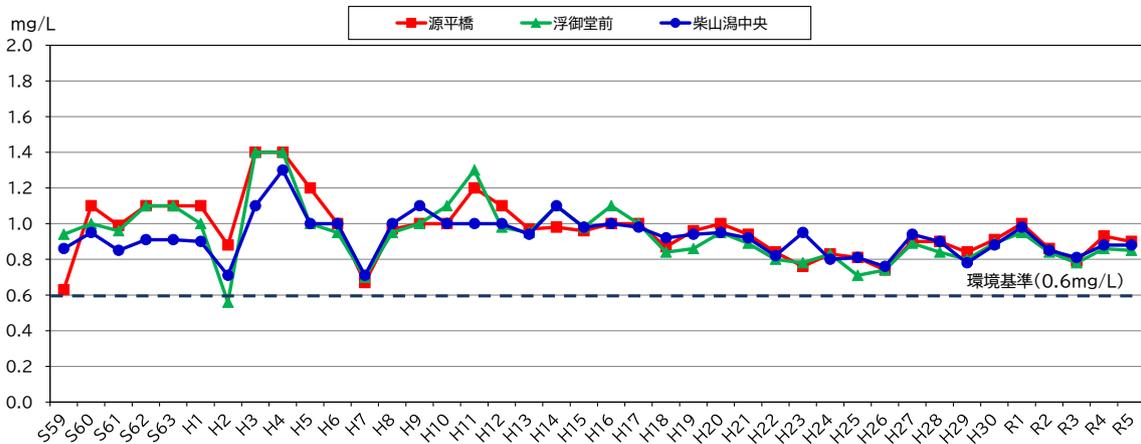


図3 柴山瀉の全窒素平均値の動向

(4) 全りん

柴山瀉の全りん平均値を図4に示す。柴山瀉の環境基準点での値は、全窒素同様、下降傾向にあるが、依然として基準を満たしていないことが分かる。

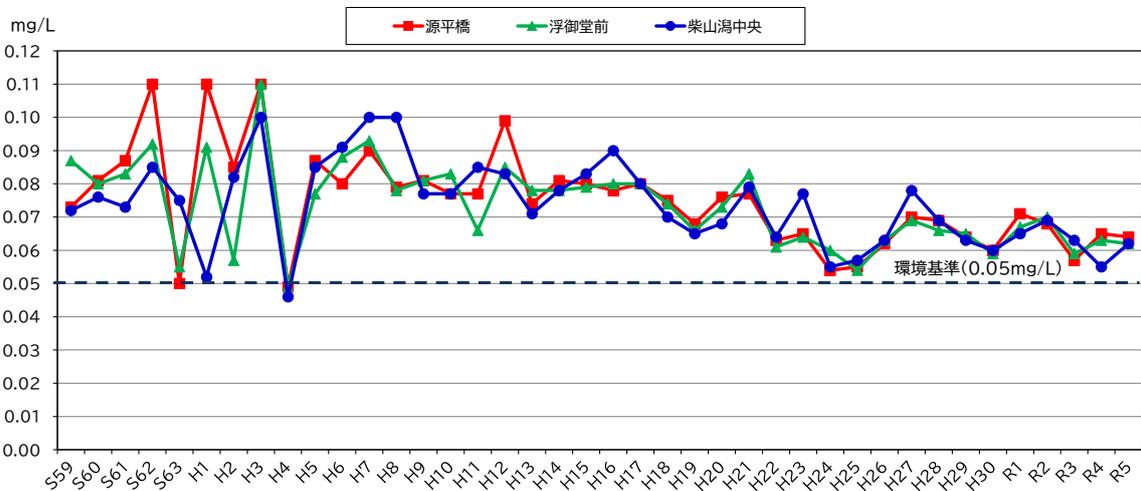


図4 柴山瀉の全りん平均値の動向

※1 COD75%値 CODはChemical Oxygen Demand（化学的酸素要求量）の略称で、水質汚濁の程度を評価するのに用いられます。湖沼、海域の環境基準値として、年間の測定値の低い方から75%の値が用いられます。

※2 BOD75%値 BODはBiochemical Oxygen Demand（生物化学的酸素要求量）の略称で、有機物汚染のおおよその指標になり、河川の環境基準値として年間の測定値の低い方から75%の値が用いられます。